

学校教育目標	『本物宿せ！本宿小』				
	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 基礎基本を身に付け、主体的に考え、学び続ける子を育てます。(知) ◇ 自分や相手のよさを見つけ、互いに尊重し合う子を育てます。(徳) ◇ 体を動かすことを楽しみ、健康に関心を持ち、自他の命を大切にすることを育てます。(体) ◇ 地域とのかかわりを大切にし、共に生きる子を育てます。(公) ◇ 夢や目標をもって、最後までやりぬく子を育てます。(開) 				
学校概要	創立 63 周年	学校長 松比良 聡夫	副校長 武藤 晋	2 学期制	一般学級: 20 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 684 人		主な関係校: 本宿中学校・鶴ヶ峯中学校		

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的な取組
<自分づくりに関する力> (自分自身を高めていく力)	本宿中学校 本宿小学校	人や自然との関わりの中で 豊かな心情を育み 自らを高められる子ども ・「自分自身を高めていく力」を引き出す学習指導のあり方について、発達段階・学年に応じた具体化した資質・能力をもとに探る。(含む教育課程の拡充) ・自己を理解する姿勢や他者を理解する態度を育成する、小中でつながりをもたせた手立てについて、授業研究会を通して考える。 ・「自分づくり・パスポート」、「あいさつ」について、取組を考え実施する。

中期取組目標	家庭・地域・諸機関と連携・協働した「子どもの存在を最優先した」学校にします。 ・楽しくわかりやすい授業づくりの推進や個に応じた指導を進め、一人ひとりの学力を向上させます。 ・縦割り活動や学校菜園などの豊かな地域の材とのかかわりを通して、思いやりや命の大切さ、自己尊重の心を育みます。 ・健全な心身の大切さを知らせ、主体的に生活習慣を整えることができるようにします。 ・地域とのかかわりを通して、地域の一員としての自覚をもち、自他のつながりに喜びを見出します。
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知 担当 重点研推進委員会	①理科、図工、外国語、家庭科を重点研究の核に取り上げ、新学習指導要領のもと各教科の横断的な学習を進める。どの学力層にも応じた支援の手立てを講じる。②身に付けさせたい資質・能力を共有し、子ども自らが問いを見出し、協働しながら課題解決に向かう探究的な学習過程を創造する。
豊かな心 担当 道徳部・児童理解委員会	①YPアンケートや「SOSの出し方教育」などを通して、自分の心をよく知り、困っていることを伝えることができるようにする。また、YPやYPの考え方を取り入れた授業(温かい言葉、安心して意見を言えるなど)に取り組むことを通して、自分なりの感じ方をもち、自他のよさを見出すことができるようにする。
健やかな体 担当 保健・体育部	①自分自身の生活や身体のことなどについて見直し改善していくために、特別活動及び保健の授業を通して継続的に意識を高める。 ②本宿体操を継続し、その良さを保護者や地域へ発信していく。
特別支援教育 担当 特別支援委員会	①個別級在籍児童の教育的ニーズを把握し、教師間で情報共有しながら、個に応じた指導の実践に努める。②特別な支援を必要とする児童について、個別的教育支援計画・個別の指導計画を作成し、面談や連絡ファイル等で保護者の理解を得ながら支援する。特別支援教育を開始する基準を明確にする。
地域連携 担当 地域連携部	子どもたちが「調べたり試したりする力」「他者とかかわりながら解決しようとする姿勢」を伸ばしていくことを目指して、地域の「ひと・こと・もの」と関わりをもって体験的に学ぶ学習活動を年間計画に位置付け、児童の実態に沿った活動を展開できるようにする。
異学年交流 担当 スマイル委員会	①各学年に応じた1時間の活動のめあてや、役割分担を意識した異学年交流をする。 ②他の人とかかわりを通して、「〇〇さんみたいになりたい」「自分にもあんなことができるといいな」と児童が思い合える活動になるよう支援する。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	①全学年で情報モラル教育を行い、いじめにつながるネット上のトラブルを未然に防ぐ。②YP、人権週間などの取り組みを通して、心を育んだり、人との関わり方を学んだりすることで、いじめを未然に防ぐ。また、「居心地の良い学校づくり」の話し合いを通して児童が主体的にいじめの未然防止に関わるようにする。
人材育成・組織運営(働き方改革) 担当 管理職・主幹教諭	①個々の教職員が、学校全体の運営に向けて意識を高めていく必要がある。各組織内での役割分担、一人ひとりがやりたいこと、できることを明確にし学校運営に参画する。 ②業務改善、民間委託導入を継続し、学年研究、授業づくり、児童理解に充てられる時間を捻出する。